

横浜市立東俣野小学校 27年度 学校評価報告書

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	<ul style="list-style-type: none"> 授業のユニバーサルデザイン化をすすめ、学習内容や方法を分かりやすくする。 スキルタイムを活用し、言葉や計算などの学習を通して基礎・基本の力を身に付けたり、読書の時間を確保して読書の習慣化を図ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を明示して見直しをもたせたり、書画カメラ等を活用したりして分かりやすい授業に努めた。補充的指導にも力を入れた。学習のスタンダードを整備し、自ら学びあう力をのばしたい。 スキルタイムや読書タイムを意識して大切に扱い、計画的に行うことで、習慣化が図られた。さらに見直しをもった活動として今後も継続して取り組んでいきたい。 	A
2 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 30周年を祝う活動を通して、仲間や学校、特別支援学校との交流を大切に、他者理解を深めたり人権意識を高めたりしていく。 家庭や地域と協力し合い、様々な行事に取り組む中で、規範意識や礼儀を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、30周年を特別支援学校と共に祝う活動を行い、両校の児童生徒のよさを感じ、理解を深めた。また、保護者懇親会を行い、家庭教育の啓発活動にも力を注ぐことができた。 	A
3 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりの運営を工夫し、めあてをもって進んで取り組めるようにする。 生活習慣の実態を把握し、家庭と連携を図って健康への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み内容の見直しをすることで、集中して意欲的に活動する姿が見られた。前期の活動(短な目)は改善したい。また、日常的な休み時間の取り組みにも目を向けたい。 生活リズムチェックカードなどに家庭と連携を図りながら、継続的に取り組んだ。歯科指導ではたいへん良い結果を出し、健康への関心を高めることができた。 	A
4 児童・ 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者と連携して、あいさつ運動を行い、適切なあいさつや言葉遣いができる子を増やしていく。 「学校のやくそく」についての話題を取り上げ、気になることは具体例を入れて児童に伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者と連携しながら、児童のアイデアを生かして活動を積み重ねた。朝や帰りの時間以外でも適切なあいさつや言葉づかいができるよう取り組みたい。 「学校のやくそく」の解釈が職員間で異なり、指導がそろわないことがあった。職員向けのスタンダードを作成するとともに、歩調を合わせて指導にあたろうとする意識をもつ。 	B
5 特別支援教 育	<ul style="list-style-type: none"> 必要な時期を適切にとらえて、ケース会議やブロック研を開き、特別な支援が必要な子たちへの支援策を明確にし、大勢で連携してあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてケース会議を行い、チームとして支援にあたることができた。スクールカウンセラーとの連携でも成果がでた。取り出し指導教室の整備を図りたい。 	A
6 保護者・地域住 民との連携	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの方たちがより活動にかかわりやすいように運営を工夫する。 安全サポートの会や敬老会の方たちと子どもが直接かかわる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に関心をもちボランティアとして参加する保護者が増えた。ボランティアをお願いする際のルールや心構えなどを明確に説明することに課題があった。 学校全体や各学年で、地域の方との関わりをもつ活動を計画的に実施し、より体験的に学びを深めることができた。安全サポートの会にはあいさつ運動にも参加頂いた。 	B
人材育成組 織運営	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修では、授業力や規範意識を高める機会とし、能力の向上に努める。学年研、ブロック研では学級経営や学習指導、児童理解についての情報を共有する。 物品管理が的確にできるよう、自分がかかわる部署の環境整備に心がけ、意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修に意欲的に取り組み、教員としての資質向上に努めた。職員同士で声をかけ合い情報共有にも努めた。時間の確保に課題があった。会議や研修の精選を行う。 	B

小中一貫 教育 推進 ブロック 相互評価結果	特別支援学校との交流がよい学びにつながっている。他者理解を深め優しい子が育つ。学習面では、日ごろの授業の中で、話し方聞き方のルールの提示や視覚的な面での工夫がありわかりやすい授業になっていた。読書タイムの取り組みは、ユニバーサルデザイン化の取り組みとともにブロック間でも情報交換し共通理解しながら取り組んでいきたい。学習面の充実のためには生活面を整えることが大切。保護者の協力が不可欠なので、保護者への啓発にもブロック全体で取り組んでいきたい。
学校関係者 評価結果	児童の自己評価、保護者アンケートともに昨年度より肯定的にとらえた割合が高くなった結果を評価していただいた。公園で体を動かす遊びが増えた、子ども会で微笑ましい取組が見られたなど、地域でよい姿が見られたことも評価していただいた。校内であいさつ運動に継続して取り組んでいるが、地域の方には恥ずかしがっている傾向があることを指摘していただいた。

評価結果に対 する学校の見解	地域の方々子どもたちを温かく見守りサポートしてくださっていることを再確認した。あいさつの励行については地域ぐるみで取り組んでおり、今後も大切に指導していく。豊かな心を育む取組を指導の核にしていく。
-------------------	--

学校経営 中期目標 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業のユニバーサルデザイン化の意識が高まった。重点研究の国語を中心に交流の場面を大事に扱い、主体的な学びにつなげることができた。朝の時間を活用した読書活動や計算・言葉の学習の体制が確立した。 ○ 児童理解・児童指導に教職員が情報共有し、ていねいに対応した。規範意識、人権意識を高めるような働きかけも意図的に行った。人の話を大事に聞ける子が増えた。「学校が楽しい」と回答する子の割合も増えた。 ○ 地域の方々と関わる活動が年々すすんだ。保護者ボランティアを伴った活動も増えた。「保護者懇親会」「生活リズム調査」の実施など、家庭教育への意識向上につながる取組も行えた。 ○ 学年間、ブロック間で、学習指導や児童指導について積極的に情報交換や意見交換を行うように心がけた。授業力向上・対応力向上にかかわる校内研修も長期休業中の期間を活用して適宜実施した。
----------------------	---